



みくびびだより

平成19年6月20日発行
御首神社社務所

御挨拶

拝啓 境内の緑も一層深みを増して参りましたが、皆様方におかれましては愈々御清栄の事とお慶び申し上げます。

去る三月二十一日皇霊殿に於いて春季皇霊祭が天皇陛下の出御により斎行されました。この皇霊祭は神武天皇の御世に始まり、皇霊を始め、天神地祇に対する神恩感謝の祭りが歴代天皇により連綿と引き継がれ、日々安泰の暮らしのあることは、陛下の大御心の現れと国民等しくこの喜びを痛感いたす次第であります。

さて、第六十二回伊勢神宮式年遷宮の奉賛活動が全国的に開始され、当岐阜県に於きましても着々と奉賛活動が進められております。千三百年という世界でも例を見ない、掛け替えのない歴史と伝統を有す此の式年遷宮は、我が国最大のお祭りであります。皆さま方に於かれましてはこの誇るべき日本の伝統文化を幾久しく守り伝えていく為にも感謝の誠を捧げられ、式年遷宮の遂行に努力邁進を願い、心からの御奉賛を賜りますようお願い申し上げます。

尚、当社に於きましては去る四月二日桜吹雪の舞つ中、年に一度の例大祭を厳肅に斎行致しました。幸い本年は天候にも恵まれ大勢の参拝者を迎え、境内では子供達による打ち囃しの奉納や、舞台での演芸が賑やかに繰り広げられ、終日賑わいをみせておりました。

最後になりましたが、御首の大神様の御神徳を漏れなく拝受され、愈々の御健勝と御多幸を祈念致しまして御挨拶とさせていただきます。

天の岩戸隠れ (古事記より)

女の子を産んだことで、誓いに勝った須佐之男命は「やった・やった！そくら見る僕の言った通りじゃないか」と言って大喜びをして、高天原ではしゃぎ廻っていました。

すっかり調子にのってしまっただ須佐之男命は、高天原で天照大御神がつくられている大切な田んぼの畦を「えらい、こんなものこわしてしまえ！」と切ってしまったり、溝を泥や石でどんどん埋めてしまっ



たり、神さまがお祭りをされる清らかな御殿をドロドロに汚したりするなど、須佐之男命のいたずらはますますひどくなるばかりです。他の神さまたちも「いくら天照大御神の弟だからといってもひどすぎるよ！あんな乱暴をどうして黙っておいでになるのだらう?」「と口々に言っていました。けれども天照大御神は、かわいい弟のすることだからと思われたのか、少しもとがめようとはされませんでした。

「あらら・・・弟の須佐之男はどこへ行ってしまった

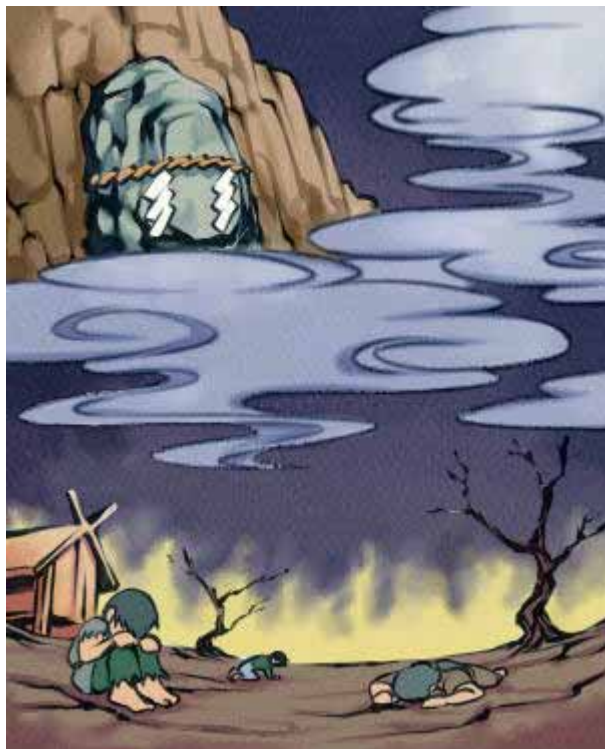
のでしょうね。又、どこかでしたらずらでもしているのかしら？」天照大御神は毎日^{あまてらすおおみかみ}が心配^{しんぱい}でなりません。

そんなある日、須佐之男命^{すさのをのみこと}が小屋^{こや}へ近づくと、中からパツタン・パツタンと軽い音^{おと}がしてきたのでそと扉^{とびら}をあけてのぞいてみると、大勢^{おおせい}の織り姫^{おひめ}たちが神さまにさしあげる大切な服^{たいせつ}をいっしょうけんめいに織っています。そのようすを天照大御神^{あまてらすおおみかみ}がやさしくごらんになっているところでした。

「よし、こいつらをおどろかしてやるう。」と言って須佐之男命^{すさのをのみこと}は小屋^{こや}の屋根^{やね}にのぼって大きな穴^{あな}をあけ血まみれになった馬^{うま}の皮^{かわ}を「ドサーッ」と投げこんだからたまりません。織り姫^{おひめ}たちは「キヤア」と悲鳴^{ひめい}をあげてたおれてしまい、その一人^{ひとり}がシヨックで死^しんでしまいました。これを見られた天照大御神^{あまてらすおおみかみ}は自分も恐ろしくなられたのか、ついに天^{あま}の岩戸^{いわと}の中^{なか}に入^{はい}って大きな岩^{いわ}でふさいでお隠^{かく}れになってしまいました。すると、高天原^{たかまのほら}も地上^{ちじょう}の国^{くに}もいっぺんにまっ暗闇^{くらやみ}になってしまったのです。しかもそんな日^ひが長くつづいたの

で、悪い神^{わるいかみ}さまが一齐^{いっせい}にあらわれてさわぎだし、カビがはえたり病気^{びょうき}になったりして、みんながすっかり困^{こま}ってしまいました。

つづく



おとうさん、おかあさん、おじいちゃん、おばあちゃんへ！

今回の「天の岩戸隠れ」は天照大御神の岩の屋戸の神話をもとにいたしました。私たちにとって神話は単なる物語ではなく、我が国の祖先から受け継がれてきた心との出会いの場であり、家族の心のかげ橋です。お子さまやお孫さまと一緒に読み頂くことにより更に愛情の確認が出来、人と人の心が深く結びつくのではないのでしょうか。是非お子さまやお孫さまに読んであげてください。

祭事報告

年越大祓 十二月三十日午後三時
 半年の間、知らず知らずに犯している罪・穢れを人形に託し、忌み火でもってお焚き上げをいたしました。

元旦祭 一月一日午前零時
 国の隆昌と世界平和並びに、皆さまのご多幸を祈念し、厳肅に齋行いたしました。

左義長 一月十五日午前十時
 一年間お護り戴いた御札や御守り、正月の注連飾りなどをお焚き上げいたしました。

淨火祭 二月三日 日午前十時
 皆様が奉納された金幣串・祈願絵馬・祈願帽子又、ご返納頂いた紅白串をお焚き上げる神事を、多くの参拝者が見守る中、真心を籠めてお伝えいたしました。



祈年祭 二月 十八日午後三時
 御嶽神社例祭 三月 十七日午後三時
 例大祭 四月 二日午後三時



本年の例大祭は天候に恵まれ、桜も満開の中で厳かに齋行され、子供たちも元氣よく神輿を担いでいました。

南宮神社例祭 五月 四日 午後三時
 相殿にお祀りしている南宮大社の御分霊（金山彦命）の例祭を執り行いました。

お田植え祭 六月 九日 午後三時
 境内の御神田前にて神事が行われ、宮司により若苗が植えられました。

農休み祭 六月 十七日午後三時
 田植えが終わったことに感謝し、秋の豊作を祈願申し上げます。

御首神社ホームページ

神職への質問FAQ

今回は「お盆」についてご紹介をいたします。

問 お盆の時期は今迄通り神社へ参拝しても宜しいのでしょうか？

答 お盆の時期であっても、神社への参拝はいけないという根拠は何もございませんので、是非御参拝下さい。

問 家が神道なのですが、お盆の時はどうしたら良いのでしょうか？

答 神道としてお盆を迎えるあたり、（祖霊舎がある場合）自宅の祖霊舎を清めて季節の品物などをお供えし、家族揃って御先祖の霊をお迎えすると云う事が一般的です。また祖霊舎が無い場合は盆棚などを設け、お供え物を奉ってお祀りされているようです。

總論 今回はお盆についての質問を二つほど紹介いたしました。

お盆は多くの方が仏教の行事と考えられていますが、元来は日本固有の先祖祀りが元になっているのです。

日本人は古来より神祀りとともに、祖先の御霊を丁寧に祀りする祖霊祭祀を行ってきましたが、我々もこの祖霊祭祀をしっかり受け継いで、次世代へ繋ぐ努力が必要だと思えます。

直会について

直会とは祭典の終了後に、御神前にお供えした御食御酒を参列した人々で戴くことを言います。

我が国の祭りは、古くから神前にお供えをし、神様が召し上がった食物を人々が戴くことにより、そのご神徳を得ることが出来ると考えられてきました。

神様にお供えした物を下げて戴くということは、宮中において毎年行われる新嘗祭の際に、天皇陛下が新穀を神様に捧げられ、御自らも召し上がるという儀礼にも見ることが出来ます。これを「神人共食」と言い、神様と人と同じ物を食すことによつて、神と一体になることが出来るとされてきました。

直会の語源は「なおりあい」であると言われていています。神職が祭りを奉仕するにあたり自らの心身の清浄に努める事を齋戒と言ひ、神社本庁の規程によれば、「齋戒中は身体を清め、衣服をきちんと正し、酒肉等の飲食を慎み、行動や言葉づかひに気を付け、不浄や穢に触れてはならない」とあります。

このように神職は、日常生活とは異なる様々な制約を受けて祭典を奉仕し、その後の直会をもつて全ての行事が終了し、ここではじめて齋戒を解き、元の生活に戻ります。これを解齋（齋戒を解く）と言つて、直会も祭典の一部であることを窺い知ることが出来ます。

従つて、この直会が一般の宴会と異なるのも、こうした意味をもつて行われているからなのです。

又、直会が簡略化されたものとして、祭典やご祈禱の後に御神酒を戴くという姿が、多くの神社で見られます。

当神社でも、ご祈禱を受けられた後に御神酒を少量飲んで頂いております。皆様も御神酒を戴かれ、益々御首の大神様のご神徳をお受けになつて下さい。



崇敬会入会のご案内

御首神社の御神徳に感謝し、当社を崇敬される方はどなたでも入会出来ますので、御参拝の折、社務所にお申し出下さい。尚、郵便にても受付出来ますので、申し込み用紙を御請求頂ければ、お送りさせて頂きます。

会員の特典（抜粋）

- 一、神前にて入会報告祭が執り行われます。
- 一、誕生日には特別祈禱が行われ、神符が授与されます。
- 一、春の例大祭・秋の崇敬会大祭にはご案内申し上げ、大祭特別祈禱神符及びお供え等が授与されます。
- 一、夏越・年越大祓にはご案内申し上げ、ご祈禱致します。

厄除開運祈禱

古来より「大厄には諸々の災難、身体の変調のがれ難し」といわれ、年回りに当る方のみならず御家族にまでも災禍が及び何かとままならぬことが多くなります。前後三年間に渡り忌み慎まなければなりません。

御祈禱を受けられ、毎日を平穩に過ごしましょう。

平成19年厄年に当る生れ年				
		前 厄	本 厄	後 厄
男子	42歳	昭和42年	昭和41年	昭和40年
	25歳	昭和59年	昭和58年	昭和57年
女子	33歳	昭和51年	昭和50年	昭和49年
	19歳	平成 2年	平成元年	昭和63年

祭事案内

西宮神社例祭（相殿）七月十七日午後三時
相殿にお祭りしている、西宮神社のご分霊
（蛭子命）の例祭です。

末廣稻荷神社例祭 八月 五日午後三時
境内の東側にお祭りしている稲荷神社の例
祭で、当日は氏子区域内の子供たちによる行
燈の奉納もあり、大変賑やかです。

夏越大祓 八月 五日午後三時半
知らず知らずのうちに受け犯している罪・
穢を祓清め、暑い夏を健康に過ごせるよう祈
念するもので、大祓の後に茅の輪くぐりの神
事が執り行われます。



長寿祈願祭 九月十五日午後四時
神明神社例祭 十月十七日 午後三時
七五三まいり 十一月一日～三十日
七五三は日本古来の人生儀礼の一つで、子
供の成長過程で三歳・五歳・七歳を節目とし
無事にその年を迎えられたことに感謝し、更
に将来のご守護を戴くお参りです。



崇敬会大祭 十一月三日午後二時
当神社の崇敬会会員のための大祭で、当日
は各地より大勢の方がご参拝になります。
御参列されるお方は昇殿して頂き、皆様方
の無病息災・家内安全・子孫繁栄などを御祈
願致します。

新嘗祭 十一月二十三日午後三時

二十一年に一度

伊勢神宮式年遷宮の奉賛に

ぜひご協力を！

皆さま方には、昨年より伊勢神宮式年遷宮の緒行事に参加する機会があり、貴重な体験をされ多くの感動を受けられたお方も多いかと存じますが、今年度より全国的に式年遷宮の奉賛活動が始められ、皆さまの地域に於かれましても、すでに奉賛の活動が進んでおられるところもあるつかと思います。

そこで御首神社といたしましても、めつたと無いこの機会に、当神社を窓口といたしまして皆さまの赤誠によるご奉賛を賜り、立派な遷宮の一助にいたしたいと存じます。

各氏神さまのご奉賛と重なるお方には恐縮とは存じますが、差しさわりの無い限りで結構です。何卒意のあるところをお汲みとり頂き、ご協力の程お願いを申し上げます。

尚、この主旨にご賛同のお方は社務所までお申し出いただければ幸いです。

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町二二八三の一
TEL(〇五八四)九一 三七〇〇

ホームページ www.mikubi.or.jp

Eメール syamusyo@mikubi.or.jp